

学校と「ネットワーク協議会」会員団体とが連携協力した事例

一緒にすごした風景を白黒写真に

場面 授業と学年行事(江東区立有明小学校)
教育プログラム 「ピンホール写真教室」(公益社団法人 日本写真協会)

臨海部にある有明小学校では、地域のマンション建設が進んだことで児童数が増え、来年度から2つの学校に分かれることになりました。PTAの学年委員の方が、ネットワーク協議会の資料からこのプログラムを見付け、学校と相談し、5年生3クラスで実施することになりました。このプログラムには友達と一緒に撮った写真を残すという、この学校ならではの目的があります。

現像するための暗室として使う会議室は、光が入らないように完全に暗幕で覆い、現像ブースを設置しますが、この前日準備にもPTAの協力がありました。

当日は、写真の歴史についての説明の後、協会が開発したピンホールカメラのキットを組み立て、グループごとに、校内での撮影

場所を相談して写真を撮ります。写真撮影の際には2分から3分間は、動けません。撮影の後は現像の作業ですが、ネガを見ることが初めての児童がほとんどで、現像液から写真が浮き出てきた時の感動に、歓声があがりました。全員が気に入った写真を発表しましたが、「屋上で撮った写真には、私が住んでいるマンションが写っていた。」「白黒写真は、とてもかっこいい。」「いつもみんなで遊ぶ遊具で撮ることができて良かった。」等の感想がありました。

担任の先生からは、「学校だけではできない経験ができ、文化祭の作品にできればと思います。写真の歴史や現像の仕組みなど、今後の調べ学習にも生かしていきます。」とのコメントがありました。



ネガとポジについて初めて知りました。



暑い屋上でも動かずに、グループごとに撮影

学校と「ネットワーク協議会」会員団体とが連携協力した事例

夏休みの講座でプログラミングを体験

場面 「サマー・ワークショップ」(世田谷区立尾山台小学校)
教育プログラム 「タブレットでチャンレンジ! 『遊べる物語』を作ろう!」
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 (以下「CTC」という。)

尾山台小学校の「サマーワークショップ」は、学校運営委員会と学校支援地域本部が中心となって準備をしています。地域の方や中学校と連携し、地域の歴史や自然環境を学ぶ講座、商店街での「商い」体験、先生が教える講座等、今年度は27の講座を実施しました。学校支援コーディネーターが分担して企画から実施までを担当しますが、ネットワーク協議会の会員団体であるCTCの情報を得て、4年生から6年生までを対象としたプログラミングの講座を実施しました。

最初に、CTCの社員が、プログラミングが社会でどのように役立っているかを説明します。コンビニエンスストアを例に、商品が

不足しないよう、間違った商品が届かないようにするための物流に、プログラミングが使われていることを伝えました。そして、1人1台のタブレットを使い、キャラクターを動かすための操作方法を学び、オリジナルの短いストーリーを作ります。様々なキャラクターや背景を選び、動かし方などを自由に組み合わせ、音を出す、動く速さを変えるなど、スタッフに聞きながら工夫して作りました。

全体で2時間半という短い時間でしたが、全員がオリジナルの作品を完成し、発表もできました。「苦手と思っていたけれど、楽しく集中できた。」「学校のパソコンクラブでやってみよう。」等、活動を広げるきっかけとなりました。



グループに1名のスタッフがサポート



最初にキャラクターの動かし方を学びます。